

個人契約までの手引き

この度は、家庭教師ドットコムにご登録いただきましてありがとうございます。
契約をスムーズに行っていただけるように、面談から指導開始までの流れとポイントをお伝えします。

1.面談の日時・場所決定・交通費について

電話またはメールで、家庭教師に面談日時と場所をご連絡ください。場所については、特別な事情がない限りは、ご自宅をおすすめします。

面談日時が決まりましたら、ご住所をお伝えし、身分証明書(学生であれば学生証、社会人ならば免許証や保険証)とそのコピーを持参するようお伝えください。

この時、面談当日の交通費を支払うかどうかをご確認ください。

2.面談について

(1)身分証明書の確認

身分証明書を確認し、そのコピーを受け取ります。

コピーはご自宅で保管ください。

(2)面談

下記の面談のポイントに沿って、家庭教師の先生がお子さんに合うかどうかを見極めましょう。

★面談のポイント

家庭教師を決める時に大切なのは、お子さまとの相性と指導方針です。相性が良くても指導方針がしっかりしていないとうまくいきませんし、逆もまたしかりです。

しっかりと結果を出せる家庭教師選ぶための記載しておりますので、ぜひご参考ください。

①家庭教師の先生自身のことを聞く

まずは、お互いの緊張をほぐすためにも、相性を見る上でも、先生自身のことを聞いてみましょう。

得意な科目、趣味や興味のあることなど、最初のコミュニケーションとして、雑談程度に色々と聞いてみてください。

指導法も重要ですが、お子さまのやる気を上げるためには、趣味や部活などの共通点があるということも重要になります。

②先生自身の勉強の仕方、教え方を聞く

その先生に教えてもらうことで、お子さんのやる気・成績が上がりそうかを見極める上でも、これまでの指導実績を聞きます。

今までに指導実績がある先生には、指導した際の教え方や結果を聞いてみてください。指導した生徒さんのタイプ、どのように指導したか、生徒さんのやる気・成績がどのように変わったかを聞くことで、ご自身のお子さまとの相性を見極めましょう。その際は、出来るだけ具体的に掘り下げて質問していくと、判断がしやすくなります。

指導実績がない先生については、先生自身の学生時代の勉強方法を聞き、どんな壁にぶつかってどのように解決したかを話してもらいましょう。

自分自身の学生時代の勉強法は、家庭教師の指導にもダイレクトに反映されます。指導の良し悪しは、指導実績の有無に関わらない場合もありますので、先生自身の経験をしっかり聞くようにしてください。

③お子さんの現状と指導の希望を伝え、指導方針を聞く

お子さんのタイプによって、相性の良い先生のタイプは変わってきます。指導の方針を聞くことで、お子さまのやる気・成績を上げてくれそうか、問題なく続けていけそうかを判断しましょう。

例えば、勉強が苦手・やる気がないお子さまの場合は、コミュニケーションをしっかりとって、モチベーションを上げてもらえそうかどうか、難関校を目指すようなお子さまの場合は、受験に向けた指導が出来るかどうかなど、お子さまのタイプや勉強の状況によって、その先生の指導方針で成績が伸びそうかどうかを判断してください。

(3)採用可否について

面談後、採用可否を決めます。その場で決めていただいても構いませんし、お子さまとご相談いただくなど、ご検討いただいてからご決定いただいても構いません。

家庭教師を採用する場合は、「3.契約の流れ」に進みます。

不採用の場合は、メールまたはお電話でその旨を家庭教師にお伝えください。

(4)交通費のお支払い

面談終了後、必要な場合は交通費を家庭教師にお支払いください。

3.契約について

家庭教師の採用が決まったら、別紙「家庭教師についての契約書」に沿って、必要事項を確認・決定します。

決定した内容を契約書に記入し、コピーを家庭教師に渡します。

原本はご自宅で大切に保管してください。

契約が完了したら、初回授業日を決めて、指導をスタートしてください。

★指導料の相場

個人契約の家庭教師の指導料の相場は下記の通りです。

この相場を目安にして、家庭教師とご相談ください。

- ・小学生【一般】： 1,500 円～2,500 円
- ・小学生【中学受験】： 2,500 円～3,500 円
- ・中学生【1～2 年生】： 2,000 円～3,000 円
- ・中学生【3 年生】 : 2,500 円～3,500 円
- ・高校生【1～2 年生】： 3,000 円～
- ・高校生【3 年生】 : 3,500 円～

4.指導開始後について

指導開始後に注意していただきたい点は、授業回数の管理です。

授業回数が分からなくなると、指導料のお支払いでのトラブルにつながりますので、1 回ごとに記録しておきましょう。

市販の月謝袋を用意し、1 回ごとに双方の印鑑を押していく方法がおすすめです。